

2019年度ユース審判員派遣 in s3 昇級受験者

青森県サッカー協会審判委員会

1. 大会名 第1回八戸市サッカー協会冬季中学生サッカー大会（トップ）
2. 主管 NPO法人 八戸市サッカー協会3種委員会
3. 期日 令和2年2月1日（土）～2月2日（日）
4. 会場 グリーンドーム南郷
5. 参加者

ユース審判員

- 久保沢 透大（サッカー3級昇級受験者）
- 関川 伽音（サッカー3級昇級受験者）
- 高鹿 祥汰（サッカー3級昇級受験者）
- 田所 柊（サッカー3級昇級受験者）
- 元沢 海斗（サッカー3級昇級受験者）
- 元沢 慎平（サッカー3級昇級受験者）
- 盛 陽南太（サッカー3級昇級受験者）
- 大手 祐哉（サッカー3級）

審判インストラクター

- ◆ 石田 明（県審判委員会インストラクター副部長）
- ◆ 石鉢 学（県審判委員会指導育成部ユース部長）
- ◆ 植村 金造（県規律・裁定委員会委員長）
- ◆ 苫米地 匡敬（審判インストラクター）
- ◆ 袴田 健（県サッカー協会4種審判部長）
- ◆ 古舘 学（審判インストラクター）

6. 競技規定（抜粋）

- 競技規則は（公財）日本サッカー協会「JFA8人制競技規則」に準ずる。
- 試合時間は30分（ハーフタイムのインターバルは3分）。ただし、競技時間内に勝敗が決しない場合、予選ラウンドは引き分けとする。順位トーナメントは3名によるPK方式により勝者を決定する。
- 交代人数に制限はなく、自由な交代とする。

7. 会場の様子

- 八戸市サッカー協会3種委員会のご厚意で、冬季中学生大会の審判を務めた。
- S3昇級受験者を招へいし、ブラッシュアップの場とした。





8. 参加者レポート

● 久保沢 透大（サッカー4級コース審判員）

今大会では主審を2回、副審を3回やらせていただきました。また、初めてPK戦を体験することができました。スムーズにすすめることはできましたが、細かいところがまだできていないと分かりました。ただ、試合中でもPKを取れたことは1歩前進したかなと感じました。試合を振り返ると、警告を出してもいい場面で迷って出せなかったことが何回かあったので、しっかりと判断をして、出すときは迷わず出せるようにしたいです。もっと経験を積んで今回できていないこともしっかりと行えるようにして、みんなから感謝される審判になりたいです。

● 関川 伽音（サッカー4級コース審判員）

私はこの2日間でたくさんの経験をしました。まず、PK戦になった時の主審・副審の位置を学びました。主審では試合中にPKを取る事が出来ました。副審ではファウルサポートが出来るようになりました。主審をしている時、プレイヤーから異議があって精神的にダメージを受けましたが、これから審判をやっていく中で良い経験になりました。他にも細かい所を注意されたので、そこをきっちり直していきたいです。

● 高鹿 祥汰（サッカー4級コース審判員）

2日目のみ参加しました。良かったところは、しっかり副審と確認しながら試合を進められたことです。PK戦も行ったので進めるときに少し焦りましたが、しっかり進められたので良かったです。悪かったところは、ボールとの距離です。争点から離れすぎて何が起きているか審判の見えないところが分かっていなかったなので、今後は直していきたいです。

● 田所 柊（サッカー4級コース審判員）

1日だけの参加でしたが、5試合ほど主審をやりました。幅を持って見るためにサイドステップを使ったり、カードを出す出さないの判断などが課題になりました。この新しい課題に向き合い、更にレベルアップしていきたいと思います。審判をやっていて、とても楽しく感じました。今後もぜひ参加したいです！

● 元沢 海斗（サッカー4級コース審判員）

私は今回、初めて主審を経験しました。主審は最終的に判断を下す役割なので、迷わず堂々と出来ました。しかし、対角線審判法の意識が低くて自由に動いてしまうことが多かったので、次は意識したいです。副審は1つのことに集中しすぎないで、周りを見て出来たので良か

ったです。

- 元沢 慎平（サッカー4級コース審判員）

私にとって最初の担当が1試合目の主審で、緊張しました。前半は副審のサポートを得ながら、対角線審判法に基づいて争点を主審と副審で挟みながら行動するように意識しました。しかし、選手との距離が近くなってしまったり、副審とのアイコンタクトが出来なかったりと、主審として取るべき行動が出来ませんでした。後半は前半のミスを克服するため、ポジショニングや副審とのコミュニケーションをとることができたので、これからの試合でも継続したいです。この後は副審を3試合ほど務めましたが、全試合を通して緊張感を持ち、昇級講習会で習熟したことを実際に活かすことができました。今後はインストラクターから指摘されたファウルスローやゴールキーパーの持ち蹴りなど、さらに細かく監視できるようにしたいです。

- 盛 陽南太（サッカー4級コース審判員）

私は2日目に参加し、まず副審を務めました。昇級試験で言われたゴールラインまでボールを見に行くことを意識しました。次は準決勝の主審を務めました。審判の辛さを知る場面もありましたが、大きな誤審もなく吹けたのでよかったです。今回の副審ではサイドステップを意識したのでそれなりに出来ました。主審のときに争点の近くで見ることが課題なので、これからも頑張ります。

- 大手 祐哉（サッカー3級コース審判員）

今回の大会では自分の良い点とこれからの課題がはっきりとわかり、自分の成長につながるとても良い機会となりました。主審では、課題であるスプリント、ポジショニングやサイドステップを意識して、説得力のあるジャッジができたと思います。逆に、争点を注目しようと意識しすぎて足が止まっていたり、周りが見えない状況があったりなど、自分が修正しなければならない点が明確になりました。副審では、フラッグテクニック、主審とのアイコンタクトを有効に使い、良い形で主審の手助けができたと思います。今後の糧になる貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

- ◆ 苫米地 匡敬（審判インストラクター）

2週連続でコース審判員の指導にあたらせてもらいました。先週と比べ、運動量やスキル共に格段と上達していて、大変嬉しく思っています。アドバイスの中で思ってもいなかった答えや動き方などの答えが返ってきた時、私はなんて頭が固いのだろうと反省させられました。私自身もっとスキルアップをしなければと考えさせられました。意識の高いコース審判員をもっと上のレベルに引き上げる為に、これからも活動を継続させ、共に成長していこうと思います。ありがとうございました。